



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp
令和6年9月30日(月)発行 第7号

続・子供たちが主役となる2学期

副校長 法月 英里

「けやきの森アート・ギャラリー」発足！

子供たちの活動をさらに盛り上げていくために、全校で新しい取組を始めます。その名は、「けやきの森アート・ギャラリー」です。子供たちが、図画工作・美術などの授業で取り組んだ成果を広く発表する場です。全校の子供たちの優れた美術・図画工作等の作品を校内で展示し、お互いの芸術性に磨きをかけることを目指す「けやきの森アート・ギャラリー・イン・キャンパス」、遠く離れた友達や御家族など誰でも見ることができるように本校のホームページを活用する「けやきの森アート・ギャラリー・オン・バーチャル」、地域の関係機関に作品掲示の場を設けていただく「けやきの森アート・ギャラリー・イン・マイタウン」の3つです。

美術科の教員が中心となり、図画工作担当教員のほか、特別支援教育コーディネーター、進路担当教員等が連携して担当します。展示は、文化祭展示作品などを中心に環境が整い次第、進めていきます。

子供たちが「今、輝くために」、また、「大きな夢に向かって学び続ける意欲を高めるために」、私たち教職員一同、力を結集させてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

会計年度任用職員(教育系)の御紹介！

学校介護職員(ケア・ワーカー)のほかに、校内の様々な場面で、子供たちが主役となる活動を支えてくださる会計年度任用職員の方を御紹介します。

<医療的ケア支援員>

肢体不自由教育部門の小・中学部に1名ずつ勤務しています。第3号研修を修了、子供たちの医療的ケアを担当し、2学期は校外学習、宿泊学習にも参加します。

<スクールバス安全運行支援員>

全校で1名が勤務しています。バスの安全な運行のための教職員の補助的な業務を担当し、スクールバス車内の児童・生徒の観察も行います。児童・生徒理解を深めたり、担任と連携したりするために教室で授業参観することもあります。どうぞよろしくお願いいたします。

問合せ

御連絡は、下記までお願いいたします。

◇平日(午前8時30分から午後6時まで) **042-367-2511** (学校の代表番号)

低学年水泳指導(肢体不自由教育部門小学部(低学年))

体育科担当 鈴木 啓真

小学部低学年は6月から始まった水泳期間が9月11日(水)に終わりました。今年度は、暑い日もありましたが、7回実施することができました。

最初は大きなプールに緊張していて身体に力が入っていた児童も、回を重ねるごとに楽しみが見つかり、お気に入りの姿勢でリラックスしたり水流を感じて身体を動かしたりすることができました。

プールでの時間が楽しくて、終わりの合図が聞こえると名残惜しそうな児童が多く見られました。水の中では、普段の生活で経験できない身体の動きを味わうことができます。

今年度、個々のできたことや課題を把握し、次年度更なる充実した活動ができるように、計画していきます。



小4校外学習(肢体不自由教育部門小学部(高学年))

校外学習担当 岡本 光

9月10日(火)に「買い物学習」で「ららぽーと立川立飛」へ行ってきました。訪問学級の児童も参加でき、4年生全員で行くことができました。1学期はグループの授業でお金や店員さんとのやり取りを学習し、事前学習では実際に行くお店や品物の写真を見てイメージを膨らませていました。自分だけの「10歳の記念の写真立て」を作るために、お店では好きな品物を各々選び、レジでは全員千円札をトレーに上手に載せ、お店の方に御礼を言うことができました。

学校での事前学習どおり、お店でも落ち着いてやり取りができた児童たちに成長を感じる機会となり、改めて学校で学習したことを社会の中で活かしていく必要性を感じました。今後も児童たちが社会の中で多様な経験を積んでいけるように指導していきます。



「できた。」が分かるICT教育の推進(知的障害教育部門小学部)

ICT教育推進担当 湊 真理子

教育の情報化に伴い、日々の授業において、ICTの活用場面が増えていきます。授業の導入として、絵本の読み聞かせなどを行うときに、小さな絵本をスライドで大きく表示することで、「視覚的に分かりやすく提示する」ことができ、児童の注視を促すことができます。また、一人1台端末は指を使ったシンプルな操作で教材を提示することができます。児童はそれぞれの画面をスクロールしたり、タッチしたり、操作を楽しみながら、「できた。」という達成感をもって学習に参加しています。

これからもICT機器を積極的に活用し、児童の興味・関心、「できた。」の気持ちをさらに引き出せるような授業づくりを行っていきます。



3観点とウェルビーイングの視点で見る教材展

研究研修部担当 田中美成

今年度の研究は、「一人1実践」を合言葉に進めています。すべての教員が「研究授業」「研究授業の観察と助言」「教材展」の3つから1つを選び、「3観点」と「ウェルビーイング」の視点から、授業や教材を見直そうというものです。

教材展は、夏季休業中の8月26日（月）から30日（金）まで、東棟2階の職員室前のスペースで行い、約60点の教材が出展されました。人が座ったり寝ころんだりできる大型のものから片手に載るような小さなものまで、またアプリを使ったデジタル教材や自作の動画など、バラエティに富んだ教材が並びました。

一つ一つの教材には、この教材が学習指導要領のどの指導内容を取り扱い、どのような目標をもって使われたのか、また作る際の工夫や使ったときの児童・生徒の様子などを書き添え（右写真）、ウェルビーイングについても考察しました。

実施後のアンケートからは、「自分では思いつかないような発想や手続きを知ることができた。」「自分の専門以外の授業でどんな教材を使っているか、参考になった。」「肢体不自由教育部門の教材が、知的障害教育部門でも使える。知的障害・肢体不自由併置校の良さを感じた。」などの感想が寄せられ、教員の視野を広げ、実践への意欲を高める機会となりました。この教材展の後、実際に教材を貸し借りする例も複数ありました。今後もこのように学校の資源（教材、情報、人材など）を活用し、指導力の向上に努めていきます。



ウェルビーイングと3観点の視点で見る教材展 No.			
教材名	ちいきなかぶ		
部門	肢体不自由教育部門	教育課程	自立活動を主とする教育課程
教科等	国語・算数	単元名	おおきなかぶ
学部学年	小学部	1～3年	対象グループ
発着者			
取り扱う学習指導要領上の指導内容・項目			
特別支援学校 小学部 1段階 算数 C 図形 アイ/対象別に注意を向け、対象物の存在に気付く、特徴を捉えさせながら具体物を通して、特別支援学校 小学部 1段階 算数 A数量の基礎 A7数の前で繰り下りたものを取ったり、身辺にあるものの中の人を捉えて指を差し上げること。			
この教材を使う際の目標	知識及び技能 指したかぶを片手で取り大きさを捉えたり、両手で触れて丸い部分と平たい部分（葉）があることを捉えたりする。	思考力、判断力、表現力等 自分の捉えたい部分に取らないうえ、丸い部分と平たい部分の状態で捉えようとする態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度
ウェルビーイング	キーワード 環境把握	ウェルビーイングの視点での教材の作り方・使い方の工夫等 「取った」「見えない部分」が捉えられたこと、自分の身体を軸にもの大きさを捉えられるよう、種は小学部低学年の児童が片手で持てる大きさにした。	
教材の使い方	展示の中で、「いっきなかぶ」「ほんのりかぶ」「おおきなかぶ」(パルーン)を併せて作ったものを用意し、「片手で持てる大きさ」「両手で持てる大きさ」「両腕を広げても届かない大きさ」を体験できるようにした。		
作成上の工夫	パルーンを十字に切ることで、かぶの見える部分の大きさを調整できるようにした。また十字の切れ目の長さを変え、簡単に取れるようにしたり、きつて取れないようにしたり、児童に合わせて調整できた。(一人1冊ずつこの教材を準備)		
成果	「取ったこと」が児童の感想で分かる。かぶがなくなったのでかぶを置いて「取ったこと」を確かめる児童が見られた。そこで、その行動が繰り返されるよう、次の年を助産させていくことを確認することを実施した。		



夏休み中の堆肥づくり ～堆肥プロジェクト～

堆肥プロジェクトメンバー 鶴澤 翔

B部門高等部の作業学習では、完成した床材に野菜くずを入れて、攪拌する工程を6・7月に行いました。給食を作る際に出る野菜くず、丁寧に乾かして苗床に混ぜ込み発酵を促していました。児童・生徒が夏休み期間中に2次発酵（最終堆肥段階）の工程がスタートとなりました。

外気温は37度、ハウス内の室温は48度。堆肥の切り返しを行い、水分を十分に含ませたのち、カーペットを載せることで発酵を促しました。翌日には温度が驚異の60度超え。素晴らしい出来となりそうです。

